

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

研修会記録

第7号

令和 2年 1月 8日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 小 泉 斎

【提案日時】

12月 4日 (水)

提案 細水 大輝 先生 (稲荷台小)

【会 場】

横浜市立稲荷台小学校

司会 栗田 一輝 先生 (山下みどり台小)

記録 東方 早紀 (大綱小)

【授業研究会】

稲荷台小学校 細水大輝 先生

単元名「横浜市の様子の移り変わり～まちを走っていた市電を追って～」

【自評 細水先生から】

- ・子どもたちがいつも通りで楽しく行うことができた。
- ・材を子どもが自ら調べられるための市電に設定し、調べることが簡単にできるよう地域の人と出会うようにし、子どもに関心をもたせることに重点を置いた。
- ・今回の資料は、路線図と土地の広がりの様子で考えを深めていきたいと考えた。

【グループ討議】

- ・本時で話し合った市電廃止の理由について、関連付けが弱かったように見えたので、板書で結びつけることによって関連付けると良かった。
 - ・話し合う中で、次時へのつながり、利便性への焦点化があっても良かった。
 - ・関連付けはどのようにさせたかった？→資料から分かったことをたくさん出させて、子どもの発言の中から関連付けて話したかった。
 - ・資料・材が子どもたちにとって大変分かりやすく、子どもたちのやりとりが出来ていた。
 - ・資料について具体的な数値があるものや、保存館の人の話があるともっと分かりやすかったのでは。
 - ・資料が見やすく工夫されているため、子どもが良く見とっていた。
 - ・前時からしっかりと子どもを見とり、資料を工夫されていることで、子どもたちが活発に話していた。
 - ・市電以外の材は何が良いか気になった。
 - ・生活の変化は、どこまで追究できると良いか。
- 市電への生活の変化は難しい。道具を入れることで、生活の要素を取り入れた。その他にも人口の変化、写真の電柱の数の変化にも注目し、くらしを追うことができた。

【ご指導・ご助言】

○小西先生より

- ・この単元は、材が難しい。市電はその点とても身近で、学習問題に本気度が伺えた。
- ・板書で移り変わりが見せられるともっと良かった。

○柳下先生より

- 学級経営が今日の授業に表れており、子どもの扱いが柔らかくなった。
- 自由な発言の雰囲気で見通しをもっていたため、主体的な調べ学習ができた。
- 子どもたちのふり返りの文章が長いということは、それだけ子どもたちが考えていた。
- この単元については、着眼点がたくさんあるが、細水先生は年表風に人口、学校、交通、土地利用がまとめてあり、見えるものがたくさんあった。
- 市電廃止の理由は、当時の新聞には渋滞として知らされていたから、3年で学習するにはまずは渋滞を抑えるべきである。
- 渋滞で抑えるのならば、車数やラッシュ時渋滞によりどのくらい時間がかかったかや事故件数などを資料で示し、おさえた後、「市電がどうしてなくなったか」を考え、交通の発展をおさえるというように、絞るところは絞って考えないと3年生には難しい。
- 関連付けは、3年生にはまだ難しい部分があるため、ある程度絞った中で学習問題を考えられると良い。

○安野先生より

- 指導案3ページの細水先生の単元構想が交通を軸において生活・土地利用を学ぶということができており、「町の変化に伴うくらしの変化」を考えることができるため、授業づくりのモデルと良い。
 - 並列ではなく、今回の細水先生のように軸を決めて、しばってどう関連付けるか考えると良い。他の区はどれを軸におくと良いか3年部会で話し合っていくと良い。
 - 資料の扱いについて、まず顔や服装が分かるアップで細かいところを比べてから、次に周りはどうなっているのだろうか？という流れで、図・写真を広げる。
 - 昭和47年の写真において、アップの写真がないと手掛かりがなく、推理の話になってしまうため、これまでと同様の写真がないといけない。
 - この実践のように最大限努力してチャレンジしていくところが大切。
- チャレンジの中にも指導要領にどう位置付けされているかを考える。指導要領の改訂には意味があるため、過去なぜこう改訂されたのか先輩方に聞いて学んでいく必要がある。